

安全安心に災害協定

始良市建設同志会と始良市



災害時における応急対策の協力に関する協定調印式

始良市建設同志会(木山裕継会長)は28日、始良市と災害協定を締結し、地域の安全安心に一丸となつて取り組むことを申し合わせた。協定は今まで始良市、始良建設業協会、加治木町建設同志会、蒲生町建設業組合と連名で結んでいた。7月23日付で一本化したことから、締結の運びとなった。市役所で地域貢献に決意を新たにしている役員ら

あつた調印式には、笹山義弘市長をはじめ幹部職員、同志会の木山会長、池端隆志・岩澤隆志・川添正剛副会長、岩澤英司専務理事、丸岡義郎・福永和則・川野義雄理事、岩下吉則・上野功造監事が出席。

調印後、笹山市長は「協定を締結し大変うれしく、心強い。大雨等による災害が日本各地で発生しており、桜島の大噴火や南海トラフ地震の可能性もある。災害時には人命救助、避難、市民生活確保するため、迅速かつ的確に対応いただきたい」と挨拶。木山会長も「社会基盤整備に携わる者として、もし災害が

日置市防災訓練に参加 水道管復旧を実演



日置市管工事組合(新山淳二会長)は、24日に日置市役所本庁舎周辺で行われた同市総合防災訓練に参加。ライフライン復旧などに取り組み、関係機関との連携内容を確認した。写真。

発生した折には会員一丸となつて地域の復旧にお役に立てるよう全力を尽くします」と決意を述べた。

協定内容は、①市管理の道路、河川、下水道等の機能確保等、緊急を要する公共施設の応急復旧作業の緊急を要する施設資機材等の調達および輸送など。

2008年に同市と災害協定を締結した同組合からは、伊集院地区の組合員8社が参加。水道管復旧訓練を行った。

訓練は、災害により配水管が破損したとの想定で実施。組合員は、配水管を切断したあと新しいものと取り替え、ライフラインの復旧に向けた作業を実演した。

中村好勝理事(南中村商會)は「毎年、防災訓練で連携体制を確認している。今後も緊急時などの際、地域のために迅速に対応できるよう、しっかりと備えたい」と語った。

鹿屋市から感謝状



鹿屋・肝属造園建設業協会(松原孝一会長)は20日、鹿屋市の居酒屋お魚々で意見交換会を開いた。同市吾平中学校敷地の冒頭、松原会長は「社会貢献活動をはじめ、地域に還元することに努め、取組んでいこう」と挨拶。

このあと、前野春義県議が鹿屋市に代わり、一人ひとりに感謝状を手渡した。前野県議は「維持管理の時代に入り造園工事の規模が少なく

技術者の道

給水装置工事主任技術者

【問題】指定給水装置工事事業者の指定の申請に関する次の記述のうち、不適当なものはどれか。

- 指定給水装置工事事業者の指定を受けようとする者は、必要事項を記載した申請書を水道事業者に提出しなければならない。
- 指定の申請にあたっては、それぞれの事業所において選任されることとなる給水装置工事主任技術者の氏名を記載しなければならない。
- 指定の申請にあたっては、給水装置工事を行うための使用材料、工法及び工期を記載しなければならない。
- 指定の申請にあたっては、氏名又は名称及び住所並びに法人にあっては、その代表者の氏名を申請書に記載しなければならない。

指定の基準は、全国一律に定められており申請により行う。

詳しくは、建設管理センター九州事業部
0120・14・5353 H P <http://www.ecc-jp.com>

【前回の解答・解説】 正解 (1)
2 L D Kの使用水量は3(人)×250(L)×100(戸)=75000(L)=75(m³) 3 L D Kの使用水量は4(人)×250(L)×100(戸)=100000(L)=100(m³) したがって200戸で1日当たり合計175m³の使用水量となる。受水槽容量の有効範囲は計画1日使用水量の4/10~6/10が標準とされるので、175m³×(4/10~6/10)=70~105m³

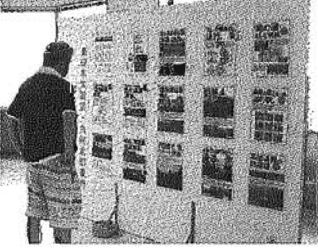
31人が実技 検定挑戦



県職業能力開発協会(薩摩川内市の川内職業能力開発短期大学校)で2014年度前期技能検定のアクリルゴム系塗膜防水実技試験が行われた。31人が挑戦した。実技試験では試験台の斜壁、天端、パイプ回りなどのひび割れ部分を増やす。霧島山麓湧水町観光協会は9月6日午後6時から、湧水町の丸池公園で「名水丸池感謝の夕べ」を開く。

当日は、星空コンサートや神楽などが行われ、舞台の周りや池の水面には竹灯籠のやさしい光が幻想的なムードを演出する。

九州北部豪雨等のパネル展 来月1日まで



九州地方整備局大隅河川国道事務所は、垂水市の道の駅で、東日本大震災と九州北部豪雨等のパネル展示を行っている。写真。9月1日まで。パネル展示には、東日本大震災での巨大地震発

堤防決壊流失のなどが写真と説明書きで分かりやすく展示。また、津波の状況や流された家屋などが写真に生々しく描かれ

「先日の広島豪雨災害や台風災害など、いつどこで何が起るかわからないので、少しでも知識を吸収しておくことも必要

読料のお支払いは
お手軽で便利な

自動振替で

鹿児島建設新聞
099-227-5100へ